

CONTENTS

- 前期企画展 資料が秘めた物語Ⅳ.....2
第76回文化講演会.....3
洋学資料館の夏休み教室開催 !!.....4
友の会の活動.....5
NEWS FILE.....6
資料館展示品から.....7
INFORMATION (催し物のご案内).....8

洋学 資料館

No. 32

September, 2023



津山洋学資料館
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING

美作市の市街地から南下して福本（美作市福本）の交差点を左折、県道414号線を和気町方面へ進むと、やがて上山という集落に行き着きます。総州（和歌山）華岡清洲本塾春林軒の門人録に「文政7年正月22日、作州英田郡上山村之内別尾（今の美作市上山）、高坂大造」とありますが、これが、その大造の眠る高坂家墓地です。「和気郡誌」によれば、大造は左膳ともいい、名が大造、昌則と号し、幕末慶応の頃に漢方医として目笠村（今の和気町目笠）で開業していたとあります。大造（左膳）の墓には、戒名「持南院四方二樂居士」、左側「高坂左膳昌則 行年七十五」、右側「明治五年壬申 四月五日卒」、そして裏面には、何か意味ありげな辞世の句「花散や嵐手連留死出の旅」（花散るや嵐連なる死出の旅）が刻まれています。

文・写真：名誉館長 下山純正



前期企画展

資料が秘めた物語Ⅳ

■ 会期：令和5年3月11日（土）～7月30日（日）

博物館に収蔵された資料は、その資料が作られてから現在にいたるまで長い年月を、多くの人の手を介して守り伝えられてきました。その過程で経てきた様々な出来事が、資料には歴史として刻まれています。色々な角度から光をあてて研究することで、資料はその秘められた物語を語り出します。今回の企画展は、9つの物語で構成しましたが、その中からいくつかをかいつまんでご紹介します。

関村（現在の真庭市）で代々医家を営んできた鈴木家には、江戸時代後期から明治時代にかけてのたくさんの方の医学書が残されています。その内容を見てみると、漢方医の中でも理論を重視する「後世方」や、実証を重んじる「古医方」、そして宇田川玄真や緒方洪庵らの西洋医学の翻訳書などが、幅広く収集されています。これらの蔵書からは、漢方医学の理論から実証、さらに西洋医学へと、鈴木家の医師たちが何代にもわたって学問を広げていった様子をうかがうことができます。

古代ギリシャの医師ヒポクラテスは、経験的知識に基づく医学を主張して医道の基礎を確立し、「医学の父」「医学の祖」といわれ、江戸時代の蘭学者たちもヒポクラテスを尊敬していました。宇田川榕菴もその一人で、彼が収集した張込帖にヒポクラテスの肖像画が含まれているほか、画家の石川大浪が模写したヒポクラテス像に榕菴がオランダ語で賛を入れた銅版刷りの掛け軸もあります。また、早稲田大学図書館が所蔵する、榕菴の描いたヒポクラテス像には「聖弟子宇榕菴描」と書き添えられ、榕菴が自らをヒポクラテスの弟子と認識していたことが分かります。

観覧者の皆さんは、それぞれに秘められた物語をひも解きながら、興味深そうに資料に見入っていました。



八百 啓介先生

第76回文化講演会

「出島オランダ商館の輸入砂糖について」

講師 北九州市立大学大学院社会システム研究科

非常勤講師・前研究科長

八百 啓介先生

4月22日（土）、第76回文化講演会を開催しました。今回は、八百啓介先生を講師にお招きし、出島オランダ商館の帳簿などの分析から見えてくる、当時の砂糖の貿易や日本国内での流通の様子について、ご講演いただきました。

日本が鎖国政策をしていた江戸時代、琉球や奄美などの国産砂糖が市場に出回るまでは、オランダ船などからの輸入の砂糖に依存しており、帳簿などの分析から、オランダ船の輸入量のピーク時の1759（宝暦9）年には1,375トンに達し、唐船（中国船）と合わせると、年間1,500～2,000トンを入力するほどになっていたそうです。

また、輸入の砂糖は積み荷分すべてが商品として流通したのではなく、輸送中の船内での漏出、荷下ろしをした倉庫内での漏出などの損失分があり、それに加え日本人の荷役の人夫に対する手当と思われる流出分もありました。さらに、オランダ商館から長崎奉行や役人に対する贈答で使用されたものもあり、それらを買収する仲買人なども存在し、長崎には正規のものに加え、これらの砂糖も流通していたことをご紹介いただきました。

ご聴講のみなさんは、こうした江戸時代の砂糖の流通状況について興味深く先生のお話に聴き入っていました。

洋学資料館の夏休み教室開催!!

□ヒンデローペン・スタッフホストの作品づくり

7月29日(土)に小学生の親子向け、翌日の30日(日)には一般向けに、オランダの伝統工芸であるヒンデローペンの作品作りのワークショップを開催しました。保護者と一般の方はヒンデローペンでブローチに絵付けし、小学生は同じくオランダの伝統的装飾技法であるスタッフホストを用いて写真立ての絵付けを行いました。



今回も、当館展示室の装飾を描かれたKinukoヒンデローペンスタジオの永江絹子先生にご指導いただきました。大人用のブローチは、下絵を描くことから始め、留め金を付けて完成させます。子供たちは、釘の頭や先に絵の具を付け、スタンプを押すように、写真立てに模様を描きました。



□おかしな生きもやっただ化学実験

8月5日(土)には、宇田川榕菴が刊行した化学書である『舎密開宗』の記述を元にした化学実験教室を開催しました。

最初の実験は、津山工業高等学校の専門学校の廣木一先生とゼミ生のみなさんによる「宇田川榕菴と名そのカメレオン水」です。薬品を混ぜ、酸化と還元により溶液の色が変わる反応や、色の変化が複雑に起きるB-Z反応(ペロウソフ・ジャボチンスキー反応)を観察し、時間とともに変化する模様を、子供たちは不思議そうに見入っていました。

2つめの実験は津山高等学校の井上直樹先生・篠山優也先生とSSH科学部のみなさんによる「江戸時代のふしぎなインク」です。フェノールフタレイン溶液で絵を描き、アンモニア水を吹きかけると透明溶液が赤色に変化することで、描いた絵が浮かび上がり、子供たちも楽しそうに実験をしていました。また、顔料とアラビアゴムを使って絵の具を作り、お土産として持ち帰ってもらいました。



□人体のしくみやはたらきについて学ぼう!



8月26日(土)には、川崎医科大学現代医学教育博物館の中村信彦先生、坪井裕子先生、森川奈津美先生のご指導による「人体のしくみやはたらきについて学ぼう」を開催しました。

まず、当館学芸員が『解体新書』についての説明をした後、講師の先生方から、人間の臓器についての解説がありました。続いて、会場まで持参くださった実際の脳や心臓、肺などの臓器の

標本をスケッチしながら、臓器の形や役割などを把握しました。その後、紙エプロンに臓器のシールを貼ることで、臓器の場所や大きさなどを学び、最後に出来上がったエプロンを着けて並び、記念撮影して終了しました。



友の会の活動

第40回友の会研修バス旅行 牧野博士のふるさと土佐を訪ねて

5月27日(土)、友の会研修バス旅行を4年ぶりに実施しました。40回目となる今回は、NHKの連続テレビ小説「らんまん」でモチーフとなっている植物学者牧野富太郎博士のふるさと高知県を巡りました。

最初に訪れたのは、高知県立牧野植物園です。多彩な植物のほか、園内の牧野記念館には牧野博士が収集した蔵書や植物画、遺品、中には宇田川榕菴の「植学啓原」を16歳の時に博士自ら写

したのなどもあり、貴重な資料を見ることができました。

高知市内の郷土料理専門店で昼食を取ったあと、生誕地の佐川町を訪ねました。青山文庫では特別展「植物学者・牧野富太郎の歩み」を学芸員の方にご案内いただき見学、その後、生家跡地に当時の外観を復元した「牧野富太郎ふるさと館」を訪れました。

短い時間ではありましたが、天候にも恵まれ、充実した一日になりました。



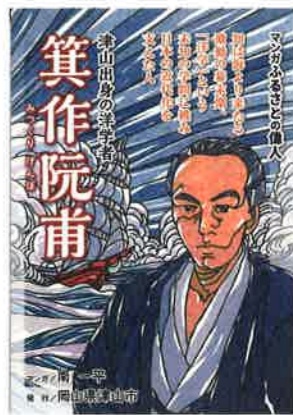
牧野植物園に到着



青山文庫の前で記念撮影

NEWS FILE

マンガふるさとの偉人 『津山出身の洋学者 箕作阮甫』制作



津山市では、ブルーシー・アンド・グリーンランド財団(略称:B&G財団)からの助成を受けて、津山出身の洋学者・箕作阮甫を主人公とする偉人マンガを制作しました。

笠岡市在住で県内の歴史や偉人を紹介するマンガを数多く手掛けておられる南一平先生にご執筆いただき、阮甫の一生を生き生きと描いていただきました。

市内の小学6年生に配布するほか、当館図書室をはじめ、津山市内の図書館、各地区の公民館などで見ることが出来ます。ぜひお手にとってご覧ください。

「日蘭学生会議」のメンバーが洋学資料館を訪問

8月22日(火)、大阪大学とオランダ・グローニンゲン大学の学生で構成された「日蘭学生会議」のメンバー20名が洋学資料館を訪問しました。

両大学の学生は毎年相互に訪問し、知見を深めているそうです。今年は、優れた洋学者を多数輩出した津山市を訪れ、現在のまちづくりの課題や日蘭交流の歴史を学習しました。

まず、館長の案内で通訳を交えながら展示室を見学しました。熱心に資料を見つめ、日本の近代化に大きく貢献した津山ゆかり



の洋学者たちの功績に、感嘆の声があがっていました。

その後、下山名誉館長から当館のオランダ関連事業について説明しました。津山市と島根県津和野町が共同で、津田真道と西成9年にオランダに設置した事業や、オランダ・ライデン市にあるシーボルト記念館との友好提携館締結の話など、皆さん興味深く聴き入っていました。

午後は、箕作阮甫旧宅や宇田川家墓所など、市内の史跡を巡りました。



新型コロナウイルス感染症の5類移行後の対応について

新型コロナウイルス感染症の5類移行後、当面以下のような対策を取りながら、少しずつコロナ禍以前の状況に戻していきます。

- ・利用者ご自身の判断に委ねることを原則とした上で、アルコール消毒液による手指衛生などの基本的な感染対策を行える環境を、引き続き整えています。
- ・図書室やギャラリーで間引いていたイスを元に戻し、ハンズオンコーナーの利用を再開。
- ・中止していた一般の方への展示解説を再開します。ただし、事前のご予約をお願いします。

なお、発熱等の体調不良の際には、ご来館をお控えください。また、感染状況の推移によっては、取り扱いを変更する場合があります。皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。



カメラ・オブスキュラもハンズオンコーナーに戻しました

資料館展示品から

榕菴とシーボルトの親交の証し

顕微鏡 (複製)



シーボルトが榕菴に贈った顕微鏡(複製) ※ 実物は早稲田大学図書館所蔵

究への意気込みにあふれていました。シーボルトからの申し出は、榕菴にとって願ってもないことだったのでしよう。自作の植物標本や写生画を送り、植物学について教えてほしいと頼んでいます。シーボルトも榕菴の願いに応じて植物学書を貸したり、珍しい薬を送ったりと、文通はしばらく続けられました。

二人がようやく出会えたのは1826(文政9)年、シーボルトが將軍に拝謁するオランダ商館長に随行して江戸に来たときでした。榕菴は到着を待ちかねて、弟子を品川まで出迎えに向かわせています。そしてシーボルトの江戸滞在中は、宿所となった長崎屋に何度も通って互いに本を見せたり、植物標本を贈ったりと親密に交流をしました。榕菴の標本の出来栄に感激したシーボルトは、長崎へ戻るときに「我が好学の友へ」との献辞を記した博物学書や植物学書、さらに顕微鏡などを贈ったのです。

この交流は二人にとって有益なものとなり、シーボルトは帰国後、『日本植物誌』を刊行してヨーロッパに日本の植物を紹介しました。そして榕菴もこの後、『植学啓原』という日本で最初の本格的な植物学書を刊行することになるのです。

文：当館HP「洋学博覧漫筆」14から転載

江戸時代、オランダとの交易の窓口になった長崎の出島には、海を越えてさまざまな人がやって来ました。その中でも最もよく知られているのはシーボルトではないでしょうか。シーボルトは1796年に現在のドイツで生まれました。大学では医学を修めましたが、植物学や博物学への関心も深かったといえます。後にオランダの軍医となってジャカルタに赴き、そこからさらに日本へ赴任することが決まります。

1823(文政6)年、オランダ商館付の医師として出島にやって来たシーボルトは、新しい交易品を探すために日本の産物、特に

植物の調査を命じられていました。ところが出島の外へ出ることがほとんど許されていなかったために十分な調査ができません。そこで、一計を案じて長崎郊外に私塾を開くことを願います。それが有名な「鳴滝塾」で、西洋医学を教える傍ら、塾生に日本の動植物のレポートを提出させることにしたのでした。

同時にシーボルトは日本の著名な学者たちを手紙を送って、研究の協力を依頼しました。その一人が江戸詰の津山藩医・宇田川榕菴だったのでした。シーボルト来日の前年、『菩多尼訶経』という植物学書を刊行したばかりの榕菴は、研

令和5年度の催し物(予定)

企画展

- 4月 前期展「資料が秘めた物語Ⅳ」
 ■22 第76回文化講演会「出島オランダ商館の輸入砂糖について」
 講師：北九州市立大学大学院非常勤講師 八百啓介先生
 ■22 友の会総会
 (休館日：10・17・24日)
- 5月
 ■27 友の会研修バス旅行
 (休館日：1・2・8・9・15・22・29日)
- 6月
 (休館日：5・12・19・26日)
- 7月
 ■29 親子でヒンデローペンの作品づくり
 ■30 ヒンデローペン絵付け体験教室
 (休館日：3・10・18・19・24・31日)
- 8月
 ■5 江戸時代の化学書からの再現実験教室
 ■19 企画展「結成150周年記念 文明開化と明六社
 —津山・津和野・中津の思想家たち—」
 ■26 人体のしくみやはたらきについてを学ぼう！
 (休館日：7・14・15・21・28日)
- 9月
 (休館日：4・11・19・20・25・26日)
- 10月
 ■7 後期展「ペリー来航170周年記念 描かれた黒船艦隊」
 (休館日：2・10・11・16・23・30日)
- 11月
 ■4 友の会創立40周年記念祝賀会
 (休館日：6・7・13・20・24・27日)
- 12月
 ■3 友の会史跡見学会
 (休館日：4・11・18・25・29～31日)
- 1月
 ■28 オムニバス講演会(学芸員による研究報告会)
 (休館日：1～3・9・10・15・22・29日)
- 2月
 (休館日：5・13・14・19・26・27日)
- 3月
 (休館日：4・11・18・21・25日)

3/11～

資料が秘めた物語Ⅳ

～7/30

8/19～

文明開化と明六社

10/7～

ペリー来航170周年記念
描かれた黒船艦隊

～2/18



・・・令和5年度後期企画展・・・



ペリー来航170周年記念
描かれた黒船艦隊

会期：10月7日(土)～

令和6年2月18日(日)

企画展 ■催し物 ■講演会 ■友の会

※新型コロナウイルス感染症の影響により、催し物は予告なく変更となることがあります。なるべく資料館ホームページでご確認ください。

ご利用案内

- 開館時間／9:00～17:00 (入館は16:30まで)
- 休館日／月曜日(祝祭日の場合はその翌日)
祝日の翌日、年末年始(12月29日～1月3日)
- 入館料／

一般	一般(65歳以上)	高校・大学生
300円 (240円)	200円 (160円)	200円 (160円)

※()内は30名以上の団体料金です。
※小学生・中学生は無料です。



〒708-0833 岡山県津山市西新町5番地
 TEL(0868)23-3324 FAX(0868)23-9864
 URL <http://www.tsuyama-yougaku.jp>



●交通のご案内

- ・JR津山駅から東楯環ごんごバス南廻り線で12分、西新町下車徒歩2分
- ・中国自動車道 津山ICから車で15分・院庄ICから車で20分